

Cinema Chupki

CINEMA Chupki TABATA

目に障がいがあっても
映画を楽しむということ



THEATER 5

シネマ・
チュプキ・タバタ

LOCATION

東京・田端

DATA

北区東田端2-8-4

☎ : 03-6240-8480

HP : chupki.jp.org

座席数 : 15席 (最大25席)

オープン : 2016年9月

映画のあと

劇場向かいにある長峰製茶の「むせかえるほどの静岡抹茶をかけたムセ抹茶ソフトクリーム」(410円)は、来館した監督たちにも人気だ。

視

覚障がいの人に映画の話をするのは、なんとなくためらう気持ちがある。

「私もそう思っていました。映画とは距離があるのでないかと思こんでいたのです」

と語るのは代表の平塚千穂子さん。平塚さんは音声ガイドをつけて上映する活動を立ち上げ、その後2016年にこの地に常設の映画館を開館した。「シネマ・チュプキ・タバタ」は音声ガイドだけではなく、聴覚障がい者用の字幕、また幼児とともに楽しめる「親子鑑賞室」など、障がい者専用ではないユニバーサルシアターだ。

「いぜん取ったアンケートで観たい映画のベスト3は『ローマの休日』『風と共に去りぬ』『カサブランカ』でした。かつて観て感動した映画が記憶に残り、もう一度音声ガイドで鑑賞したいのだと思います」

では、映像の記憶がない初めて観る映画を、音声だけでどのように感じるのだろうか。当日はドキュメンタリー『夢みる小学校』(オオタヴィン監督)が上映されていた。満席だったが補助席を借りて最後尾で鑑賞してみる。全席に音声ガイド用のジャックが備えられていて、左右別々にボリュームが調整できるようにになっている。上映が始まるとともに目を閉じてみた。作品は宿題もテ

ストもない日本で最も楽しい小学校「きのくに子どもの村学園」に密着したものだ。冒頭子どもたちが遊具などを自分たちで作っている場面が音声で紹介される。音声はとてもクリアだ。作品のナレーションともぶつかり合うことなく巧みに作品をガイドしてくれる。同時に子どもたちの歓声や工具を使う音などが耳に入り、不思議とその場面が頭に浮かんでくる。

■



座席数は少ないがゆったりしたスペースと森の中をイメージしている館内(上)。子どもがぐずった時に助かる親子鑑賞室(右下)。全席備えつけのイヤホン・ジャック(左下)。



実際の受け止め方は違うのかもしれないが、音声だけの鑑賞は想像力がかきたてられ、作品を十分に楽しめるのは確かだった。

■

まるごと1冊、映画を通して世界を見る大特集!

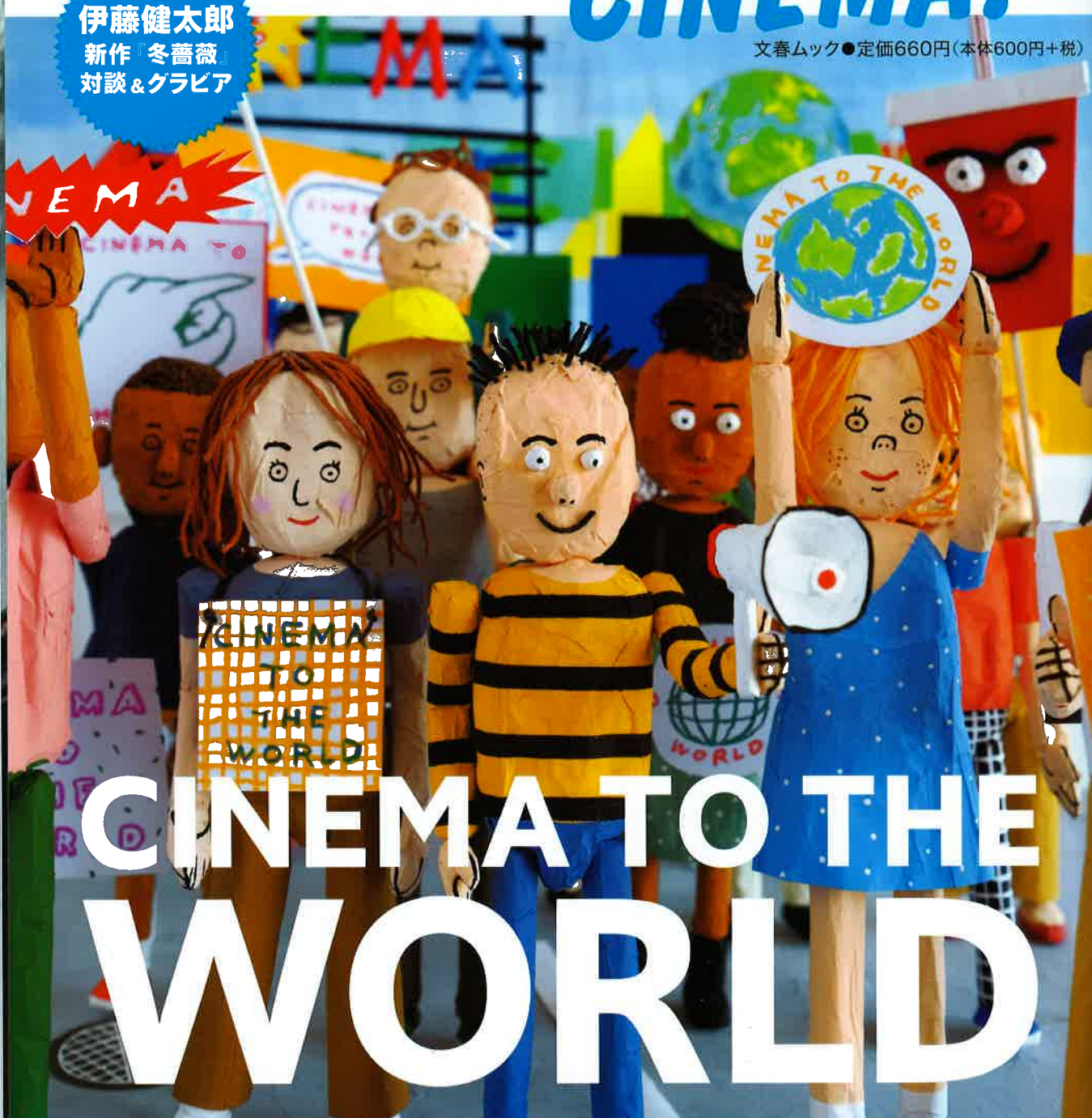
週刊文春

CINEMA!

2022
夏号

伊藤健太郎
新作『冬薔薇』
対談&グラビア

文春ムック●定価660円(本体600円+税)



CINEMA TO THE WORLD

プーチンと戦争を知るための11本 | 河瀬直美『東京2020オリンピック』を語る